

「NPO法人さじ未来の 取り組みについて」

令和3年11月25日(木) 特定非営利活動法人さじ未来
理事長 小谷繁喜

佐治地区の状況

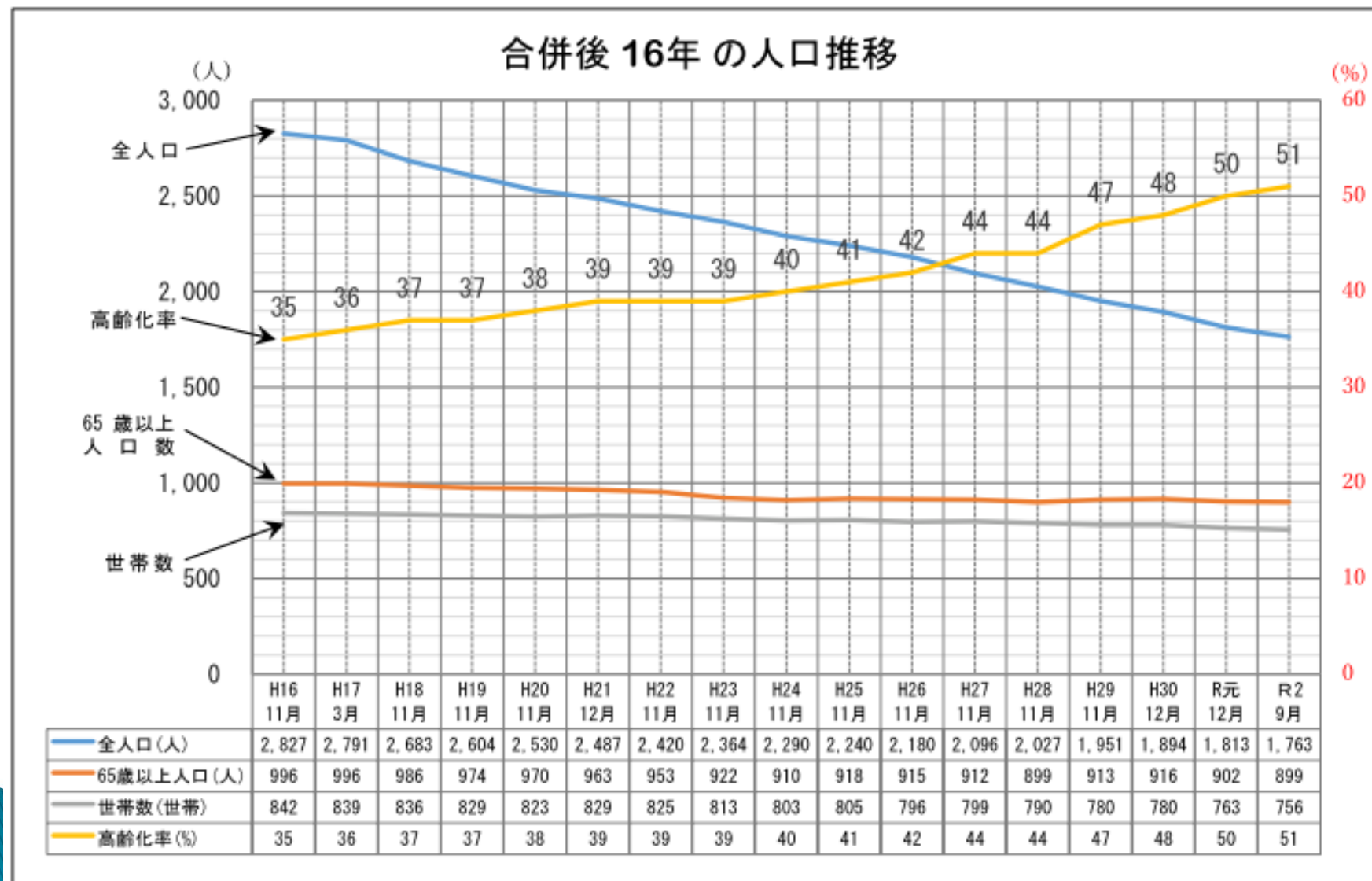
(1)人口(令和3年9月1日現在)

- ▶ 人口 1,700(男798人、女902人)
- ▶ 高齢化率 **52.3%** (全人口中890人)
- ▶ 世帯・集落数 740世帯・27集落

※**合併新市域の中で突出して、人口減少と少子高齢化が進行している地域**



佐治地区の状況



佐治町の小さな拠点事業の取り組み経過概要

▶ 1. 経過概要

- ▶ 佐治町の人口は、平成16年合併時の約2,800人から17年間で約1,100人、率にして40%程度減少し、現在では約1,700人となっています。また、65歳以上の高齢化率も50%を超え、過疎と少子高齢化が合併新市域の中でも突出している地域となっています。
- ▶ 過疎と少子高齢化が進行していくと、生活に必要なサービスや機能を維持していくことがだんだんと困難になってきますが、これからも暮らしを守り地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すためには、住民主体で新しい地域運営の仕組みづくりに取り組む必要があります。
- ▶ そのような中で、平成28年12月より町内各種団体代表25名により、「佐治町小さな拠点事業事前検討会」を立ち上げ協議を重ね、平成29年5～6月には中学生以上の住民1,896人を対象として住民の生活状況等に関する住民アンケートを実施しました。
- ▶ その後、平成29年11月に具体的な事業計画を検討する「佐治町小さな拠点事業推進委員会」に移行し、12月には町民を対象としてシンポジウムの開催、平成30年2月には各年代別等の座談会を開催するなどして意見やアイデア等を出していただき、3月末に地域助け合い事業の計画を取りまとめました。

佐治町小さな拠点事業の取り組み経過概要

2. 時系列での流れ

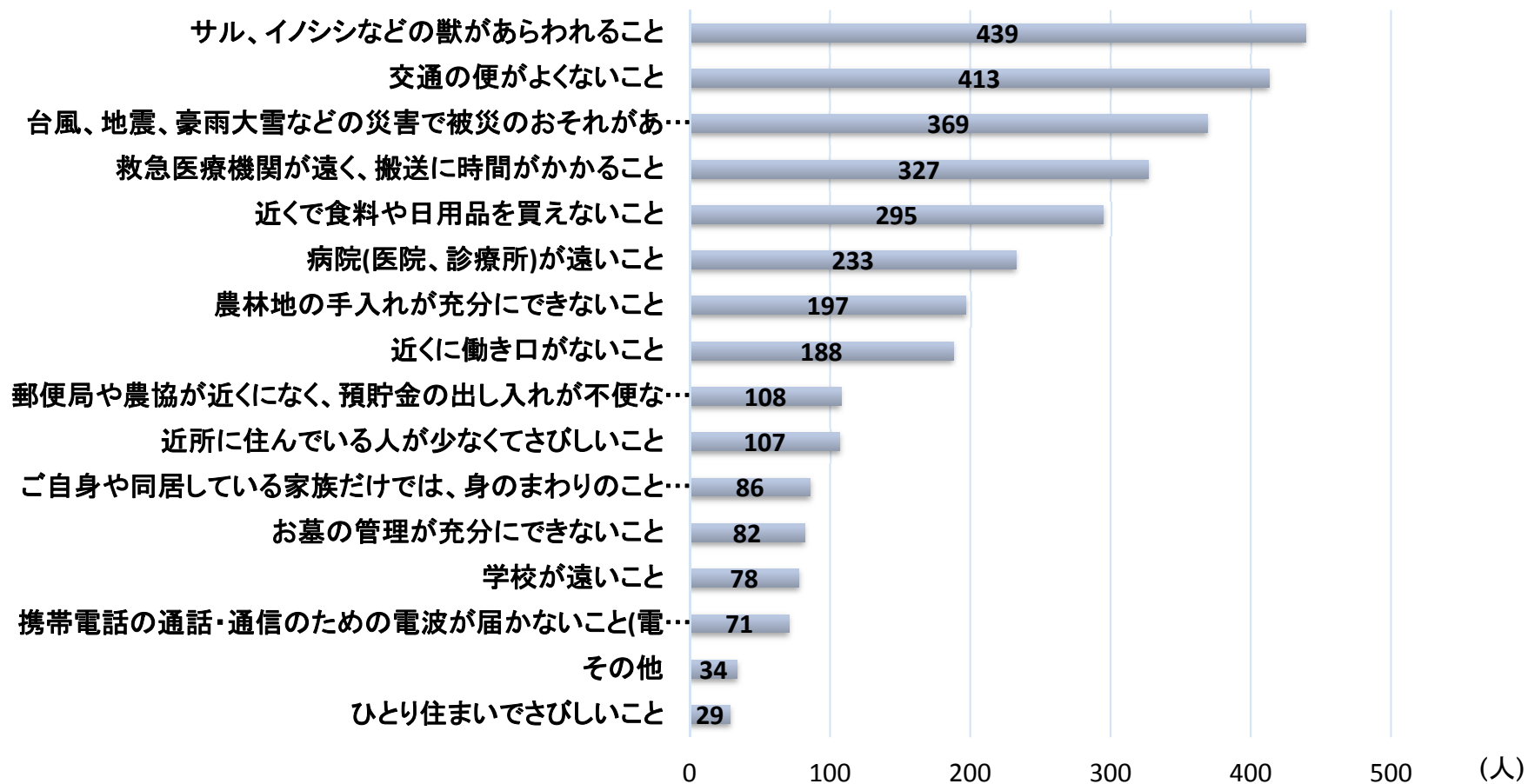
- 平成28年12月 「佐治町小さな拠点事業事前検討会」発足
- 平成29年5～6月 住民の生活状況等に関する住民アンケートを実施
対象：中学生以上の住民1,896人
回収：954人（50.3%）
- 平成29年11月 「佐治町小さな拠点事業推進委員会」発足
- 平成29年12月 「佐治町小さな拠点づくり」に向けたシンポジウム開催
- 平成30年2月 「佐治町小さな拠点づくり」に向けた座談会開催（6回）

開催日	対象者
2月3日(土)	女性(中学生以上)
2月3日(土)	30代・40代(男女問わず)
2月4日(日)	中学生～20代(男女問わず)
2月4日(日)	70代以上(男女問わず)
2月6日(火)	50代・60代(男女問わず)
2月7日(水)	町内各種団体

- 平成30年3月 「佐治町小さな拠点事業推進委員会」で事業計画案を決定
- 平成30年4月 佐治町小さな拠点事業計画案の報告説明会を開催
- 平成30年5月～ 随時、集落説明会の開催（全26集落中、15集落で開催）
- 平成31年4月 佐治町小さな拠点事業による事業運営組織の法人化の決定
（佐治町自治連合会総会で報告・承認）
- 令和元年8月 特定非営利活動法人さじ未来設立（登記）
- 令和元年10月 地域助け合い事業など順次事業開始

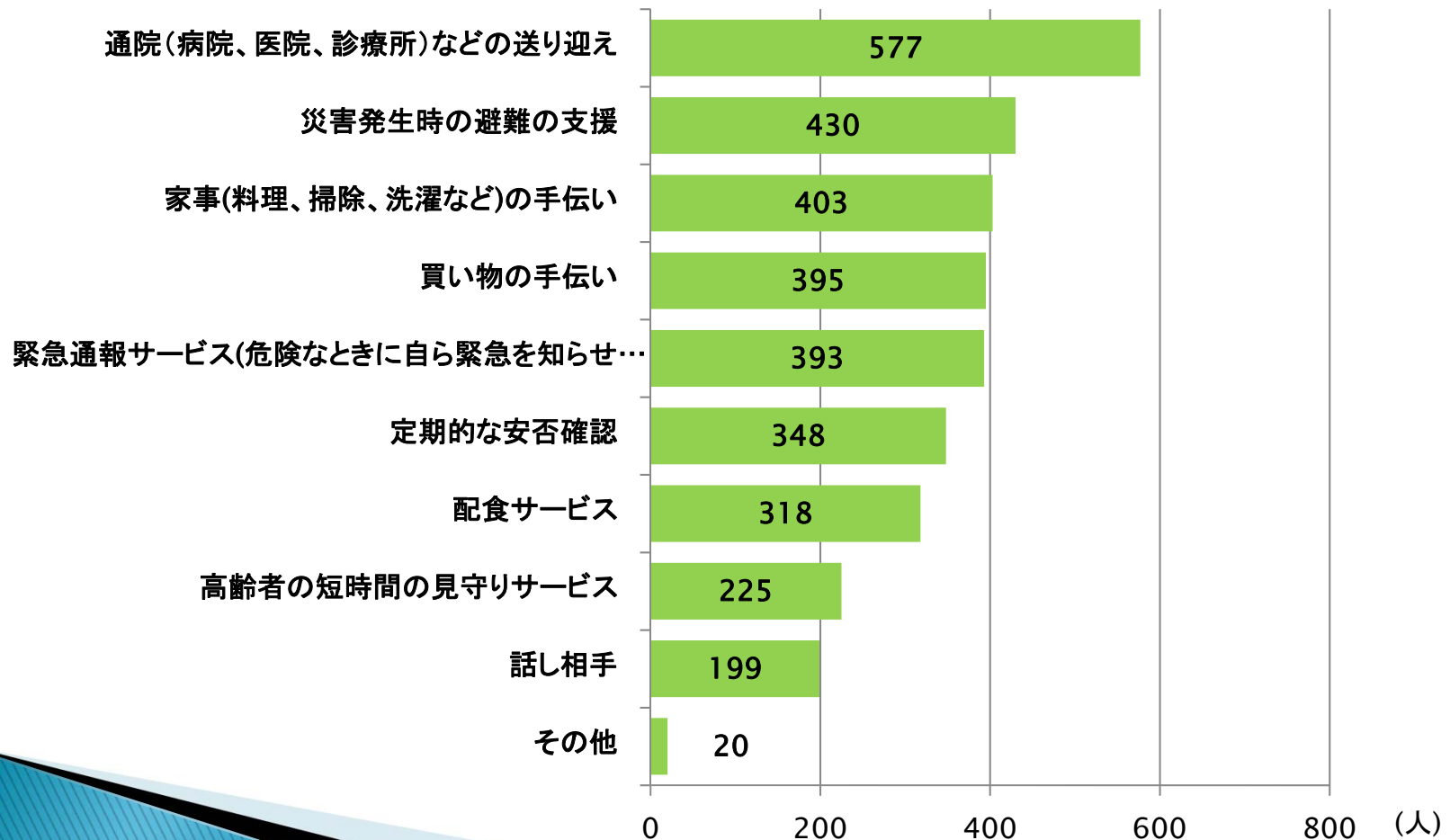
15歳以上住民アンケート結果

現在生活するうえで困ること、不安なことは



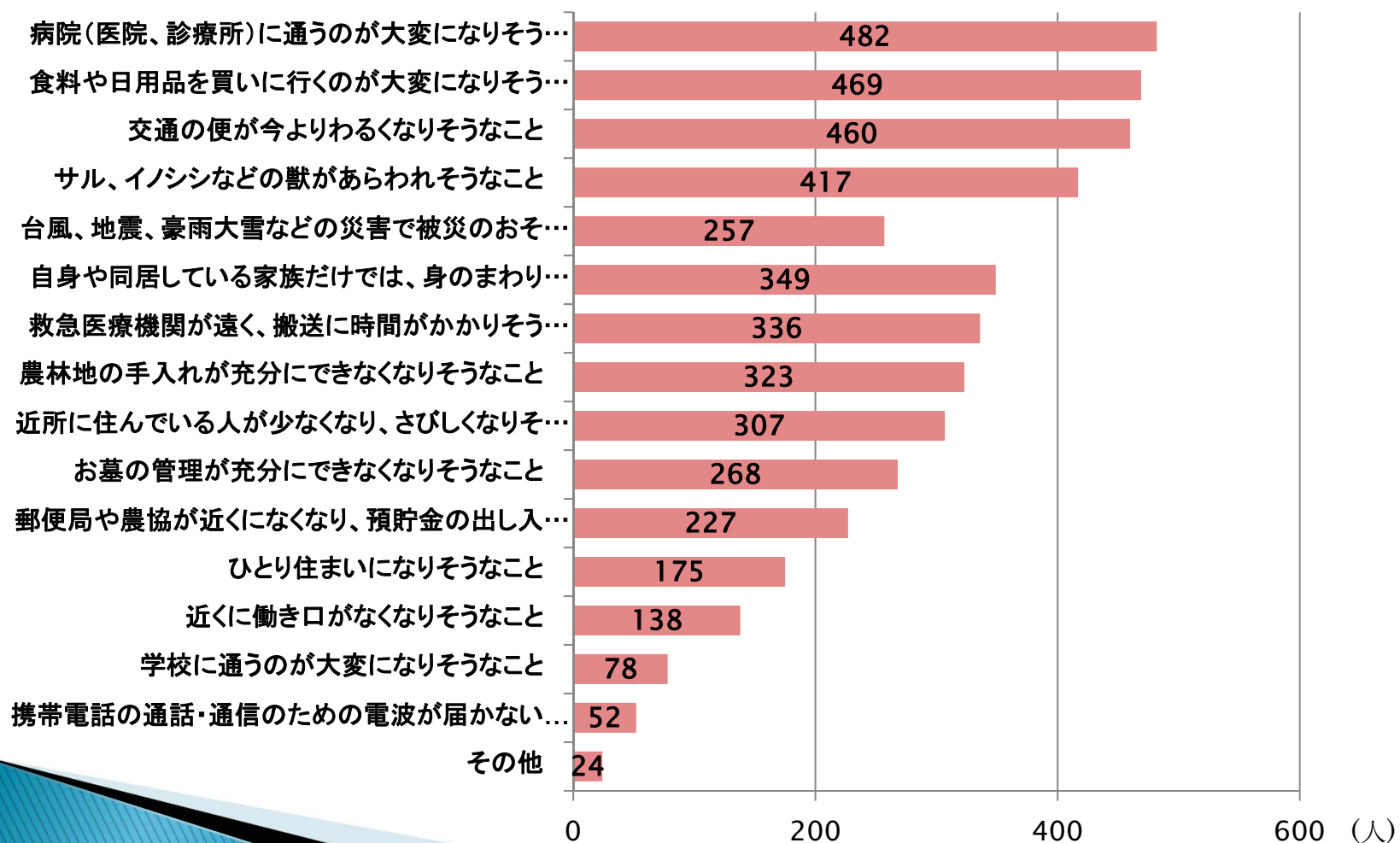
15歳以上住民アンケート結果

日常生活が不自由になったとき必要なサービスは



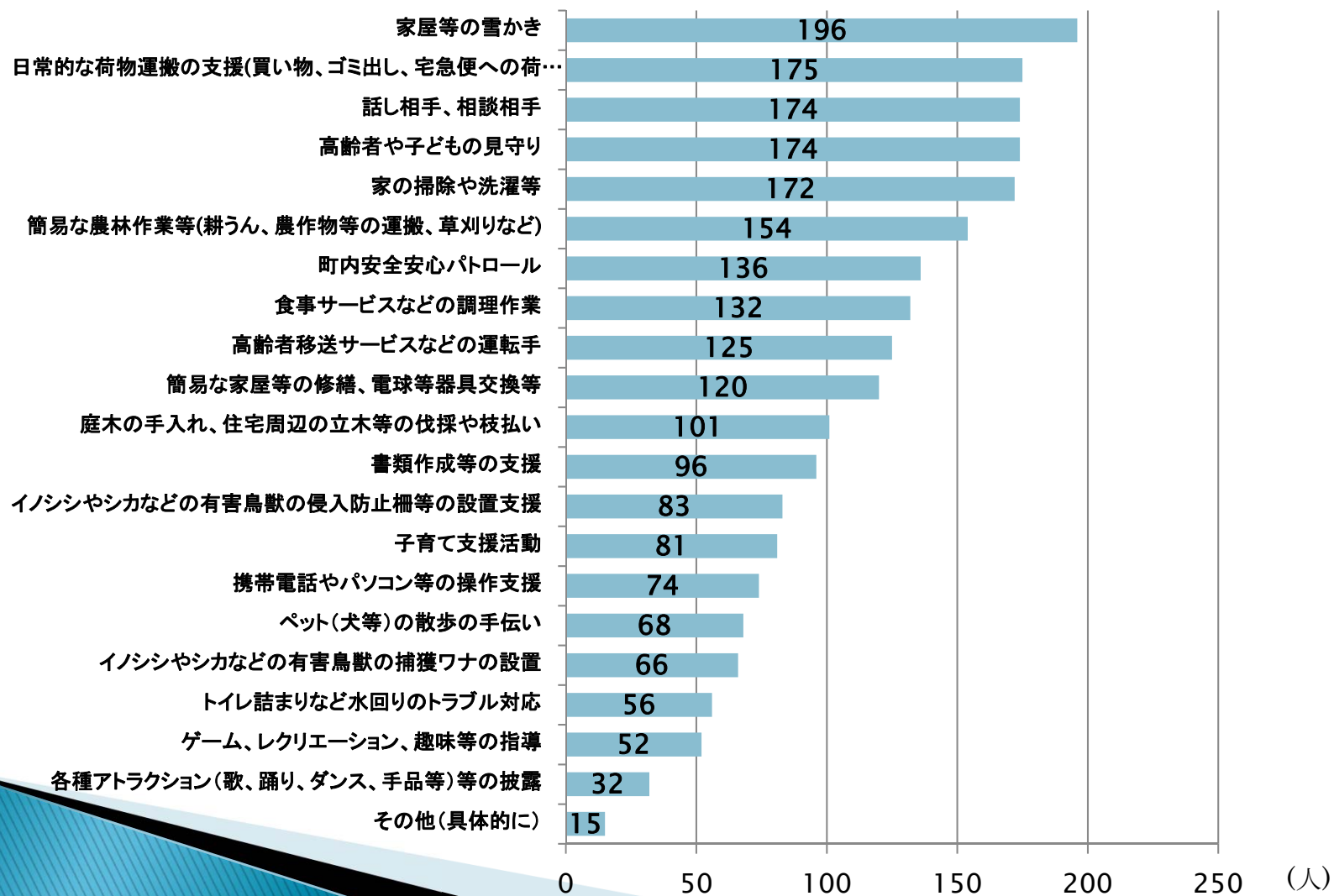
15歳以上住民アンケート結果

10年後の生活を考えると不安なことは



15歳以上住民アンケート結果

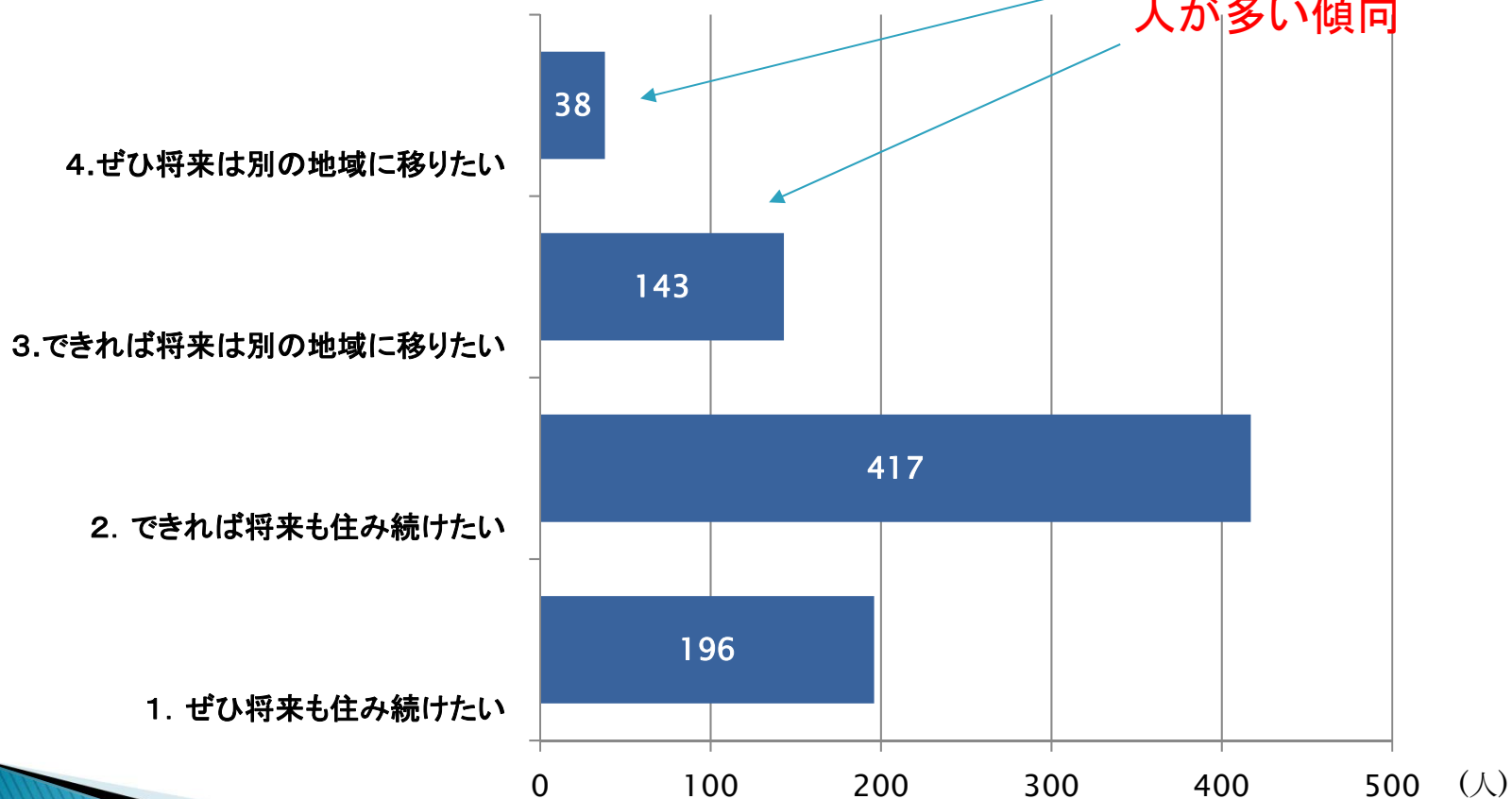
安心して暮らすために協力して出来そうな活動等は



15歳以上住民アンケート結果

将来も住み続けたいですか

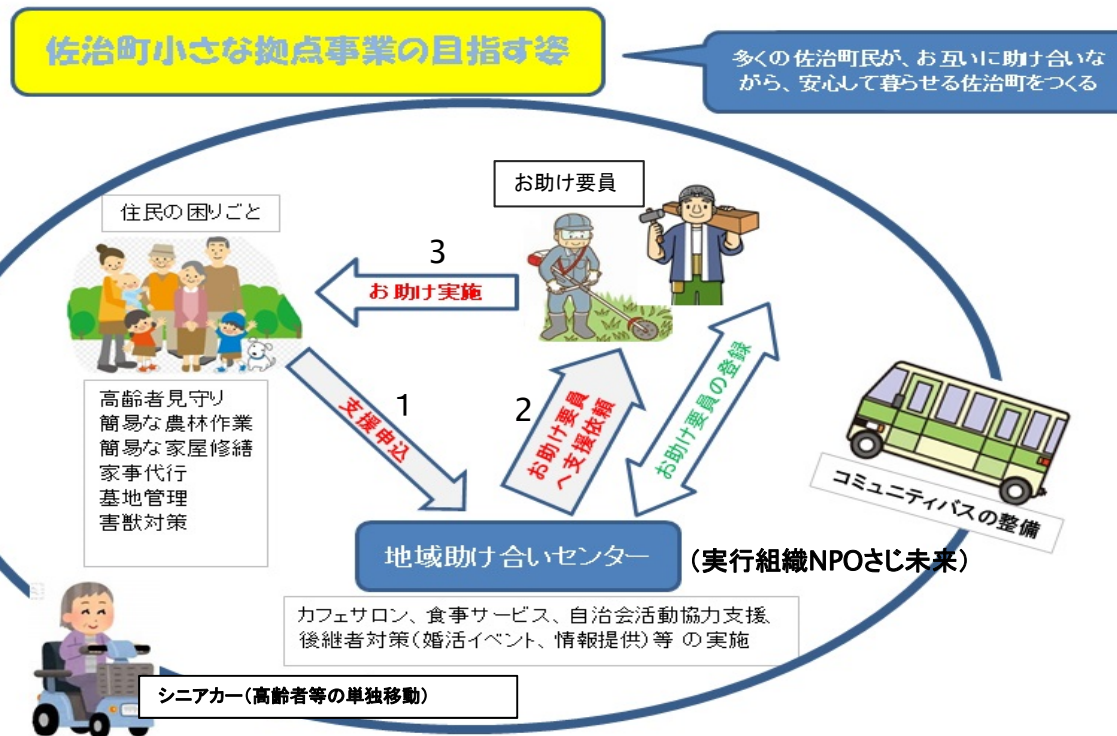
※生活の利便性の面から、
山王地域の方が佐治町から
移住したいと考えている
人が多い傾向



佐治町小さな拠点事業計画

●これまでの、どちらかと言うと「行政まかせ」や「行政頼り」から、**できることは可能な限り住民主体で取り組むことへの転換。** ※下図のような仕組み作りを目指し

逐次実行中



特定非営利活動法人 さじ未来

●佐治町小さな拠点事業推進委員会で計画した、「地域助け合い事業」「佐治ふれあいサロン事業」などの事業を実施・運営するための組織。NPO法人設立は令和元年8月

・各事業の経緯

※各事業の概要は後述ページで説明

①地域助け合い事業(お助け要員派遣事業)

…令和元年10月より事業開始

②佐治ふれあいサロン事業……………令和元年12月より事業開始

- ③地域交通事業……………○令和2年1月26日に「佐治町小さな拠点事業推進委員会」との共催で先進地講師を招きシンポジウムを開催することで、事業検討へのスタートアップとした
○同年7～8月に佐治町住民に対するアンケートを実施
○同年9月に佐治町各種団体から構成される佐治町生活交通会議を立ち上げた
○令和3年10月より本格事業開始 ※定時及び予約型運行

④佐治ふれあい広場管理委託事業……………令和2年5月より事業開始 ※管理委員会からの受託事業

⑤その他委託事業など……………令和3年度より開始(佐治町コミュニティセンター指定管理事業・地区公民館事業・まちづくり協議会事業など)

⑥情報収集・情報発信事業……………隔月で広報誌発行、ホームページによる情報提供を実施 ※別紙「NPOさじ未来通信チラシ」参照

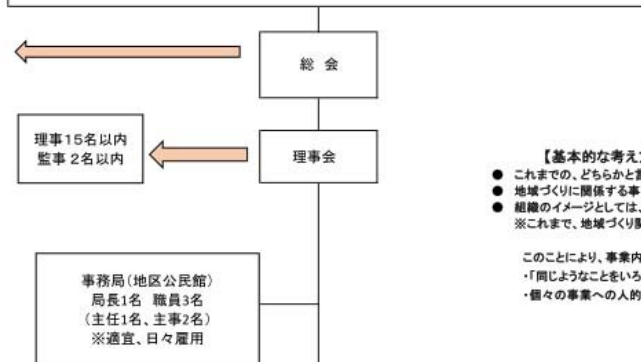


特定非営利活動法人 さじ未来

組織体制・実施事業概要(予定)

【正会員】
 ・佐治町内の24の自治会(集落)
 (その他の団体)
 ・佐治町まちづくり協議会
 ・佐治町自治連合会
 ・各地区振興協議会
 ・佐治町社会福祉協議会
 ・佐治町老人会
 ・佐治町婦人会
 ・(一社)五しの里さじ地域協議会
 ・(株)さじ武拾壹
 (個人) 20人
 【賛助会員】※随時、募集中
 ・団体(佐治と関連がある会社等) 11団体
 ・個人 30人

特定非営利活動法人 さじ未来



※令和元年8月設立

連絡先: 〒689-1313
 鳥取市佐治町加瀬木2542-1
 (佐治町コミュニティセンター内)
 電話0858-88-0228 FAX0858-88-0219
 担当: 青柳

【基本的な考え方】

- これまでの、どちらかと言うと「行政まかせ」や「行政頼り」から、できることは可能な限り住民主体で取り組む
- 地域づくりに関係する事業は、基本的にこの組織で一括して取り組む
- 組織のイメージとしては、地域づくりなどの団体の集合体「オールさじ」
 ※これまで、地域づくり関係の各種団体をまとめるような組織(団体)は佐治には無かったが

このことにより、事業内容や日程等の調整が容易となり、その結果
 ・「同じようなことをしている団体それぞれにしている」こと等の弊害が少なくできる
 ・個々の事業への人的な支援や連携等ができやすくなる

地域助け合い事業

・「地域助け合い事業」に関すること
 地域助け合い事業とは、人口減少や高齢化が進行している佐治町において、これからも住み慣れた地域に住み続けていける仕組みの一つとして、いろいろな困りごとなどにお助け委員を派遣する事業
 具体的: 各種家事支援、草刈り、雪かきなど

令和元年度～

ふれあいサロン事業

・サロン事業に関すること
 隣近所の高齢者、若者、児童生徒など、住民の誰もが気軽にいつでも寄り合え、お互いが生活の張りや生きがいを持ち合えるような場づくりを通して、地域での孤立予防や日頃の見守り・助け合いシステムの構築へと繋げ、住み続けられる地域づくりをめざすもの。
 概ね2か月に1回実施

令和元年度～

地域内交通事業

・佐治町生活交通会議に関すること
 ・通院、買い物等への共助交通事業に関すること
 ・公共交通空白地有償運送等に関すること
 ・その他、地域の交通システムに関すること

令和2年度～

ふれあい広場管理事業

・平成28年に芝生化した旧佐治中学校グラウンドの「佐治ふれあい広場」の維持管理に関すること

令和2年度～

まちづくり協議会事業

・まちづくり協議会に関すること
 ・佐治地区公民館(事業)に関すること
 ・佐治町人権同和教育推進協議会に関すること
 ・佐治町敬教会に関すること
 ・その他地域づくりに関すること

令和3年度～

佐治ふるさと祭り事業

・佐治ふるさと祭りに関すること

令和3年度～

指定管理事業
佐治町コミュニティセンター

・佐治町コミュニティセンターの指定管理事業に関すること

令和3年度～

実施中の各種事業

地域助け合い事業



●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、いろいろな困りごとなどにお助け要員を派遣(請負形態)する、**住民主体による共助事業**

例えるなら、**住民同士の助け合い**のような事業

※令和2年度末まで・・・事業開始から延べ67件の依頼実施

令和3年4月～10月・・・延べ23件の依頼実施

●登録要員56名(男性:44名、女性12名) ※R3.11.1時点
内訳・・・口佐治:10名、中佐治:24名、第3区:16名、山王:6名

●事業メニュー等

※別紙「地域助け合い事業チラシ」参照

●要員の保険について

怪我・物損事故に備えて、
「あいおいニッセイ」のNPO向け
総合保険に加入済み



実施中の各種事業

佐治ふれあいサロン事業

●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、地域での孤立予防や日頃の見守り・助け合いシステムの構築へとつなげ、**住み続けられる地域づくりを目指す事業**

例えるなら、**どなたでも参加できるカフェのような場所を提供する事業**

※令和2年度末まで・・・ 事業開始から延べ5回実施

令和3年4月～9月・・・ 事業実施無し ※コロナ禍のため

令和3年10月・・・ 消しゴムはんこづくりサロン

●サロン運営委員会

構成員・・・佐治町に係る各種団体役員など(会長1名、副会長1名、委員6名)

●開催場所

佐治町コミュニティセンター、
佐治地区保健センター料理実習室など
の佐治町内各施設

●開催時期

概ね2カ月に1回程度の開催予定



実施中の各種事業

佐治ふれあい広場管理委託事業

●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、佐治ふれあい広場(旧佐治中学校)等の貸し出し・維持管理を、ふれあい広場管理委員会からの委託で行う事業

※令和2年度末まで・・・広場貸し出し11件、維持管理15回

令和3年4月～10月・・・広場貸し出し8件、維持管理12回

●ふれあい広場管理委員会

構成員・・・関係する佐治町内の各種団体など

(会長1名、副会長1名、理事3名、監事2名)

●対象場所

佐治ふれあい広場(貸し出し・維持管理)、
高山多目的広場(維持管理)

●委託内容

事務一式、施設内の芝刈り・草刈り等実施



実施中の各種事業

その他委託事業など

●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、それぞれの団体等からの委託で行う事業

※令和3年4月1日より開始

・まちづくり協議会事業

・・・佐治町まちづくり協議会、佐治地区公民館、佐治地区人権同和推進協議会など佐治町の地域づくりに関する事業

・佐治ふるさと祭り事業

・・・佐治ふるさと祭りに関する事業

・佐治町コミュニティセンター指定管理事業

・・・佐治町コミュニティセンターの指定管理に関する事業(主に貸館業務と施設維持管理業務)

・地域交通事業

・・・佐治町生活交通会議への参画及び主に津無、津野方面を中心とした交通空白地有償運送事業など ※取組み経緯等は次頁以降参照

地域交通に関する住民アンケート調査

●佐治町を運行している路線バス、鳥取市有償バスの維持が難しくなっている昨今の状況を踏まえ、住民の皆さんの現在の生活交通等にかかる実態を把握し、**今後の佐治町での地域交通の在り方を検討していくうえでの基礎資料**として活用するもの。調査の概要は次のとおり。

調査期間：令和2年7月～8月

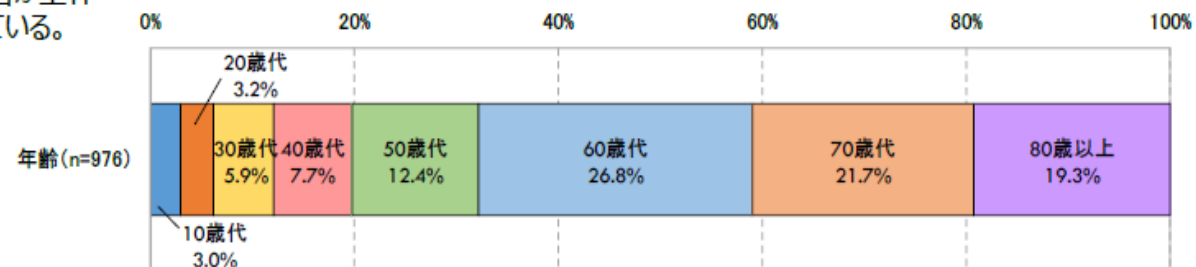
調査方法：自治会によるアンケート用紙配布・回収

対象者：中学生以上の佐治町住民

回収状況：回収票：990部 配布数：1,707（回収率：58%）

回答者の年齢層

60歳以上の回答者が全体の7割以上を占めている。



※詳細は次頁「移動に関するアンケート調査結果について」参照

地域交通に関する住民アンケート調査

鳥取市役所（交通政策課）・佐治町総合支所・NPO法人「さし未来」からのお知らせ

移動に関するアンケート調査結果について

1. 調査の概要

佐治町では現在、民間路線バスと市が運行している鳥取市有償バスの2路線が運行していますが、通学目的以外の利用者が少なく、バスの維持・確保に係る支出額も高止まりしています。このような状況を踏まえ、佐治町においても、効率的でかつ地域の移動実態・ニーズに対応した、持続可能な新たな移動手段確保策として、地域が主体となった移動手段である「共助交通」の検討を進めることとなりました。

今回ご協力いただいたアンケート調査は、皆さんの移動実態や「共助交通」に対する考えを把握し、導入に向けた検討材料を得ることを目的に実施しました。この紙面では調査結果について一部抜粋してお知らせします。

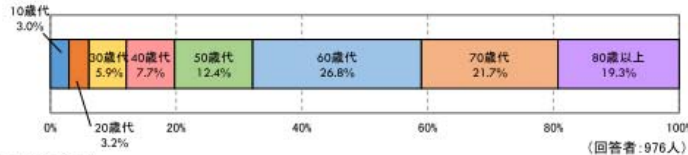
調査対象	佐治町に居住している方（中学生以上）
調査方法	自治会を通じた配布・回収（実施期間：令和2年7月～8月）
回収状況	回収票：990部 配布数：1,707（回収率：58%）

多くの皆さまにご協力いただきありがとうございました。

2. ご回答いただいた方の属性

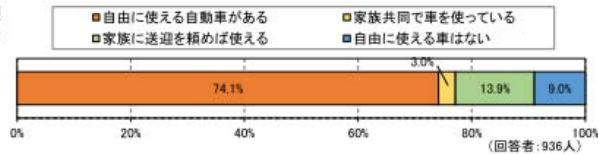
(1) 回答者の年齢層

- 60歳以上の回答者が全体のおよそ7割以上を占めています。



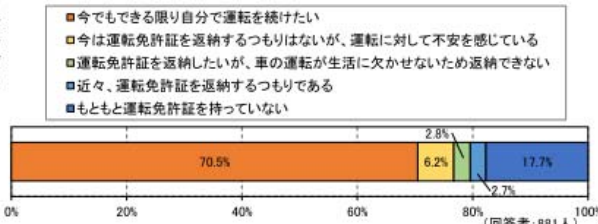
(2) 自由に使える車の有無

- およそ1割の人は、送迎も含めて自由に車を使うことができません。



(3) 運転免許返納の意向

- 車の運転に対して不安を抱えている人や、返納したくてもできない人が合わせて1割程度います。



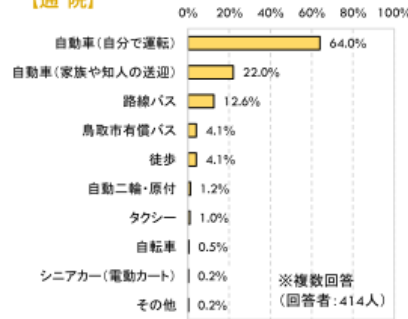
3. 外出（通院・買い物）の状況や移動の実態

(1) 外出時に利用している交通手段

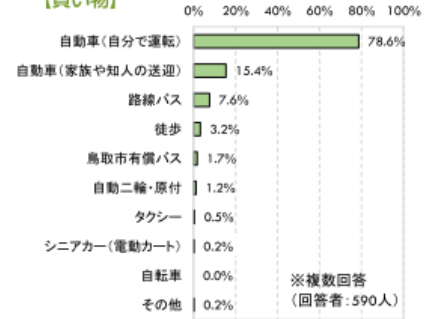
① 全回答者の集計

- 多くの人は自動車（自分で運転や送迎）で外出しています。
- バス（路線バス・鳥取市有償バス）で移動する人の割合は、買い物より通院が高くなっています。

【通院】



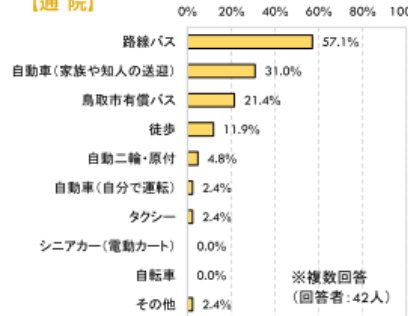
【買い物】



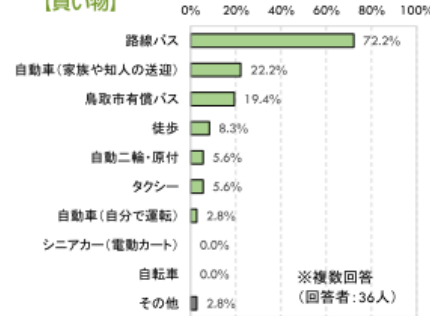
② 自由に使える車を持っていない人に絞った集計

- 自由に使える車を持っていない人の多くは路線バスを利用して外出しており、通院より買い物でバスを使う人が多いことがわかりました。

【通院】



【買い物】



(2) よく行く通院先・買い物先

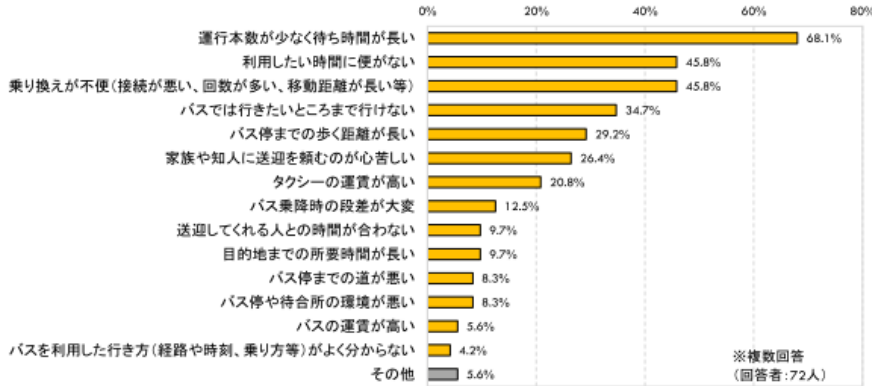
- 通院先は佐治町内、買い物先は用瀬地域の施設が比較的多く挙げられました。

よく行く通院先（回答件数の多い施設を抜粋）	よく行く買い物先（回答件数の多い施設を抜粋）
佐治町国民健康保険診療所（佐治）・・・164件	トスク用瀬店・・・153件
井上医院（用瀬）・・・64件	トスク佐治店・・・47件
鳥取市立病院（旧市域）・・・56件	(店名未記入145件)
林医院（用瀬）・・・53件	ゴダイドラッグ用瀬店
鳥取赤十字病院（旧市域）・・・32件	・・・48件（店名未記入128件）
鳥取県立中央病院（旧市域）・・・29件	エスマート鳥取南IC店（河原）
	・・・49件（店名未記入101件）

地域交通に関する住民アンケート調査

4. 移動について不便を感じている点や困りごと（自由に使える車を持っていない人に絞った集計）

- 「運行本数が少なく、待ち時間が長いこと」「利用したい時間に便がないこと」「乗り換えが不便であること」などが困りごととして多く挙げられています。

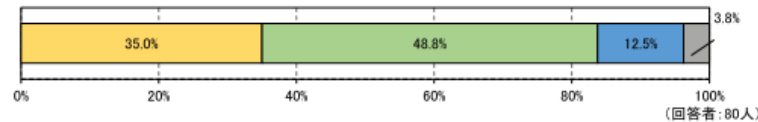


5. 佐治町で運行している路線バスや市有償バスについて（バスを利用している人に絞った集計）

(1) 費用（市の補助金）や利用状況を踏まえた今後のバスに対する考え

- 「バスと同じ費用をかけるなら、地域に適した別の交通手段を検討すべき」の割合が高くなっています。
- 全回答者で集計した結果においても、「バスと同じ費用をかけるなら、地域に適した別の交通手段を検討すべき」の割合が高くなっています。（全回答者のおよそ57%）

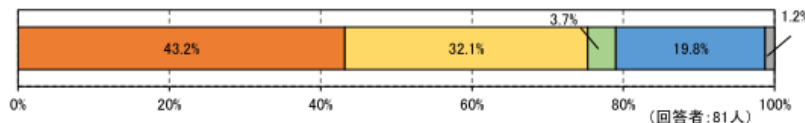
- 費用(補助金)が多額になっても、引き続き現在のバス路線を維持すべき
- 費用(補助金)をかけるのならば、今のバスではなく、地域に適した利便性の高い別の移動手段を検討していくべき
- よくわからない
- その他



(2) 運転者不足を踏まえた今後のバスに対する考え

- 「地域で運転者を確保し、バスより利便性の高い移動手段を導入する」の割合が高くなっています。

- 地域で運転者を確保し、かつ現在のバスよりも利便性の高い移動手段を導入する
- 地域で運転者を確保し、現在のバスの運行を維持する
- 運転する人がいないのであれば、現在より不便になっても仕方ない
- よくわからない
- その他



6. 新たな地域の移動手段確保策「共助交通」について

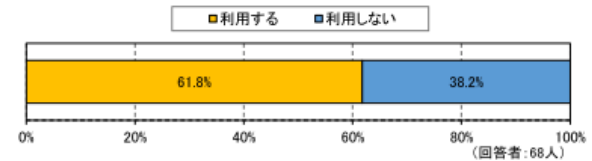
共助交通（公共交通空白地有償運送）とは

地域の移動手段（バスやタクシーなど）が確保できない場合に、NPO法人や地域組織などの団体（地域住民）が自家用車両を使用し、有償で運送する運行形態。地域住民が主体で運行するため、きめ細やかな運行計画を立てることができる。（現在は、末恒地域や大和地域では導入済）

(1) 共助交通が運行した場合の利用意向

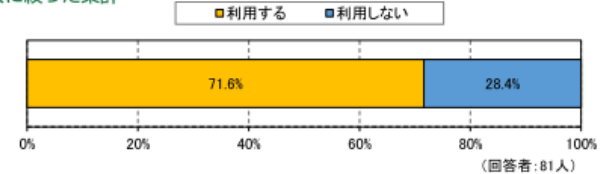
① 自由に使える車を持っていない人に絞った集計

- 自由に使える車を持っていない人のうち、およそ6割の人の利用意向を確認しました。



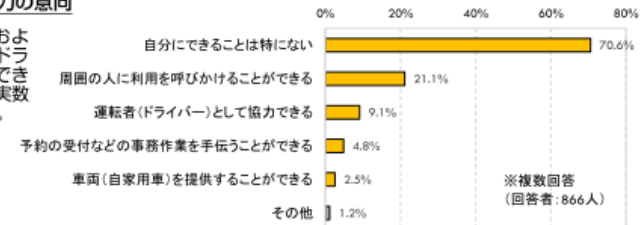
② バスを利用している人に絞った集計

- 現在バスを利用している人のうち、およそ7割の人の利用意向を確認しました。



(2) 共助交通に対する協力の意向

- アンケート回答者のおよそ1割は、「運転者（ドライバー）としての協力できる」と回答しており、実際では79人になります。



7. 調査結果のまとめ

今回のアンケート結果を基に、「共助交通」の導入に向けて検討を進めていきます。なお、アンケート調査結果から把握した共助交通導入に関する留意点は以下のとおりです。

《共助交通の導入に向けて検討すべき点》

移動の実態から	実態に即したルートや移動目的（通院や買い物）に対応できるダイヤの設定
移動に関する不便や困りごとから	他の交通手段（路線バス・鉄道等）との乗り継ぎへの配慮 利用したい時間帯の運行や運行便数の確保
バスの現状に対する意識から	バスとは異なる交通（共助交通）に対する理解の促進（丁寧な説明、地域と連携した利用方法のレクチャー等が必要）
共助交通の利用意向から	現在バスを利用している人のスムーズ（負担ない）移動手段の移行 予約制運行の検討と高齢者等が利用しやすい予約方法
共助交通への協力意向から	持続可能な移動手段を目指すための運転者確保策、地域との協体制度の構築

佐治町生活交通会議の設置

●令和2年7～8月に実施した住民の皆さんの普段の移動実態や共助交通などに対するご意見などを把握するアンケート調査結果を参考に、通院や買い物などへの共助交通運行事業に取り組み、更には**利用者の意見や要望等を佐治町生活交通会議を通して検討し、今後の本格運行に向けての参考に**するもの。



具体的に住民の利用実態を調査するため「乗降調査」「試験運行」を実施し、それらの結果をこの会議の中で議論し**「佐治町生活交通創生ビジョン」**を策定することとなった。

※策定までの流れは次頁以降で説明

構成員：関係する佐治町内の各種団体など
(会長1名、副会長1名、委員8名)

※なおオブザーバーとして鳥取県・

鳥取市等からも関係者数名が参加

会議回数：6回(令和3年9月現在)



佐治線(日ノ丸バス)乗り降り調査

●佐治線の詳細な利用実態を把握し、基礎資料として今後の共助交通等の運行に活用するため、乗降調査を実施した。調査の概要は次の通り。

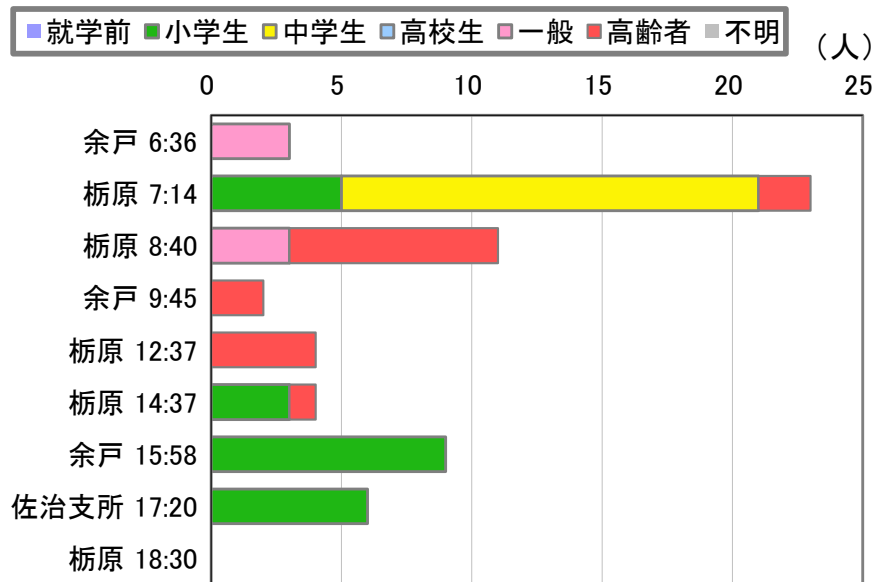
調査日 : 令和2年11月13日(金)

調査方法: 調査員が一日、佐治線のすべてのバスに乗り込み、利用者数と属性(年代等)及び乗り降りしたバス停を記録

利用者 : 125人

(小学生:46人 中学生:35人 高校生:2人 一般:10人 高齢者:32人)

<佐治→用瀬>



<用瀬→佐治>

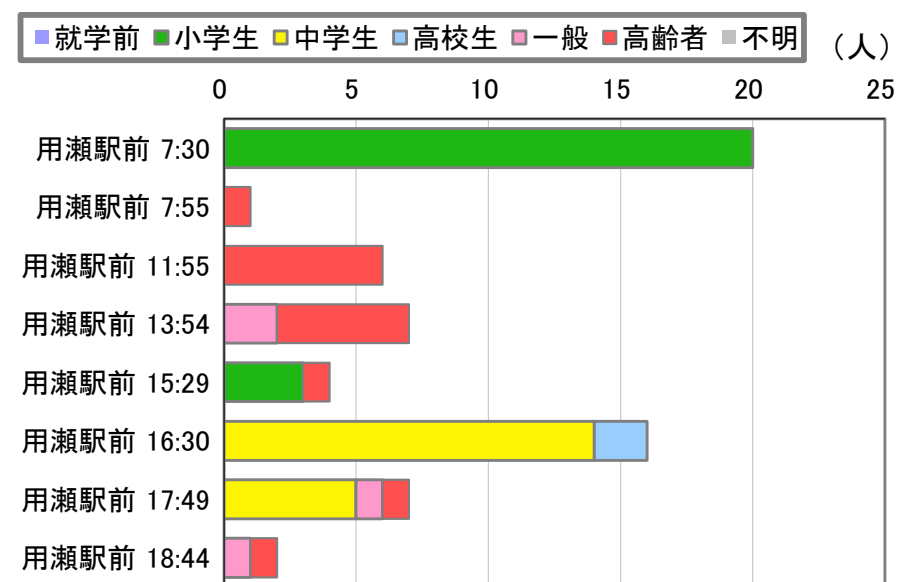


図 佐治線(日ノ丸自動車)の便別利用者数(平日1日)

共助交通試験運行による調査

●**試験的に**通院や買い物等への共助交通試験運行にも取り組み、寄せられた意見や要望等を参考にして「佐治町生活交通会議」の中で、これからの佐治町で必要かつ便利で効率的な地域交通の在り方等を考えて行こうとするもの。概要は次の通り。

調査日 : 令和2年 11月16日(月)～22日(日)、令和3年1月18日(月)～24日(日)

調査方法: 試験運行を利用された方に、後日アンケートを実施

利用者 : 2回の試験運行でそれぞれ25名、43名

(1回目・・・津無:2名、加瀬木:1名、高山:3名、津野:11名、大水:1名、小田:1名、細尾:2名、畑:3名、尾際:1名)

●アンケート結果(利用者からの声で本格運行後に望む内容を一部抜粋)

- ・宅急便のような機能の追加(例:畑で採れた野菜・農繁期の梨花粉の配達:**貨客混載事業**)
- ・狭い集落に入るために、もう少し小さい車両にして欲しい
- ・路線バスのフリー乗降のように、車両が来たら手を挙げて乗る制度が良い
- ・本格運行後は例えば「春の花見」「秋の紅葉狩り」などツアーと題して送迎をしてもらえたら、友人で誘い合っでの利用があるのでは



鳥取市有償バス乗り降り調査

●市有償バス佐治線の詳細な利用実態を把握し、基礎資料として今後の共助交通等の運行に活用するため、乗降調査を実施した。調査の概要は次の通り。

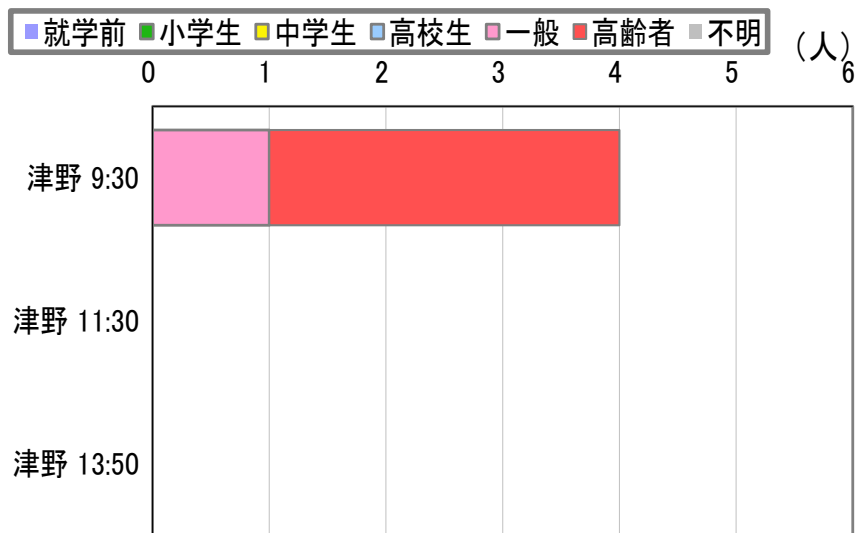
調査日 : 令和3年2月8日(月)

調査方法: 調査員が一日、すべての市有償バスに乗り込み、利用者数と属性(年代等)及び乗り降りしたバス停を記録

利用者 : 8人

(一般:1名、高齢者:6名、年代不明:1名)

<佐治→用瀬方面>



<用瀬→佐治方面>

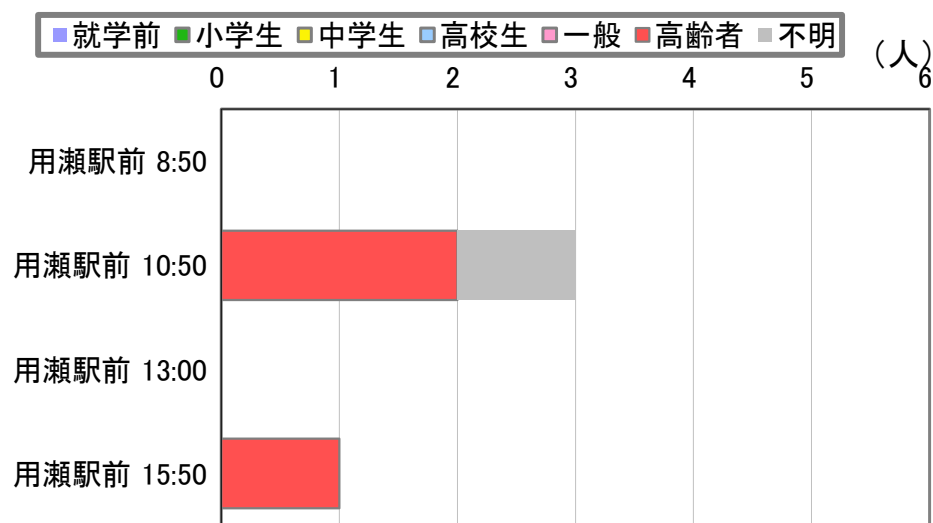


図 鳥取市有償バス佐治線の便別利用者数(平日1日)

佐治町生活交通創生ビジョン策定

- R2年度に行ったアンケート調査、乗降調査及び試験運行の結果を元に、佐治町生活交通会議で議論し、これからのあるべき生活交通体系の構築に向けて取り組もうとする**佐治町的生活交通のビジョン**を策定した。基本理念は「佐治町民の暮らしを支える“生活交通”を 創り・守り・育てる」という事。

策定期期 : 令和3年5月

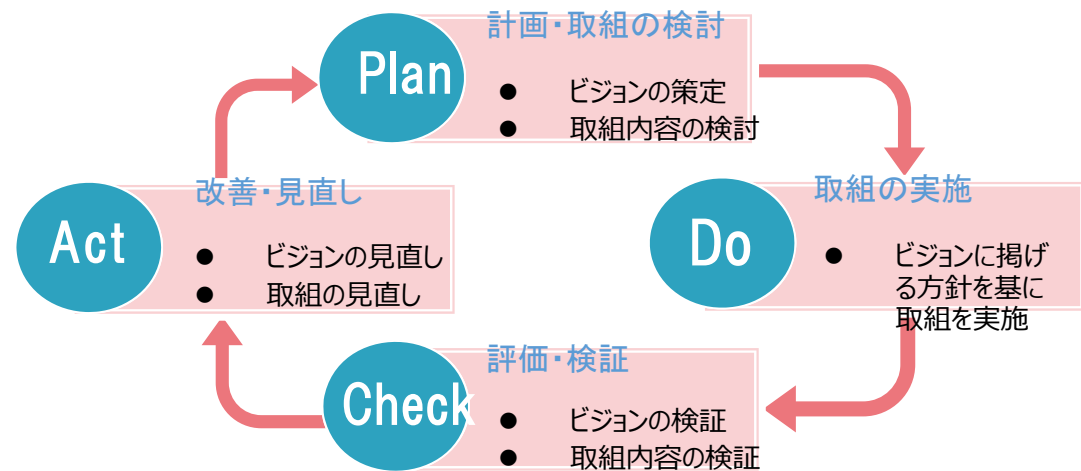
区域 : 佐治町全域

計画期間 : 令和3年度(2021年)から令和12年度(2030年)までの10年間とし、今後の社会情勢の変化や施策の実施状況等に合わせ、柔軟に見直しを行うこととした

●評価・検証

事業実施にあたってはPDCAサイクルの考え方に沿って評価を行い、見直しの必要があれば改善計画を立案し、随時改善を行なう。

また、事業については、佐治町生活交通会議において進捗確認と評価を行い、適宜改善しながら継続していく。



地域交通の運行内容・運行管理体制

●令和3年10月より、策定した「佐治町生活交通創生ビジョン」に沿って、公共交通空白地有償運送として今後の地域交通の在り方等を具体的に進めていくこととした。当面、令和3年9月末で廃止の市有償バスの運行(定時運行)を次のとおり継承する。



●運行内容

運行主体:特定非営利活動法人さじ未来

運行開始:令和3年10月1日(金)～

運行形態及び範囲:(月)(水)(金)は定時運行 ※運行範囲は市有償運行ルート引継ぎ
(火)(木)は予約運行 ※運行範囲は佐治町一円及び用瀬駅周辺

運行時間:8:30～17:00 ※予約運行時の開始時間は多少前後可能

対象者:佐治町住民に限らずどなたでも利用可能

利用料金:中学生以上200円、小学生・障がい者100円、幼児は無料 ※市有償運送料金引継ぎ

予約方法:(火)(木)運行は電話予約 ※乗車希望日の前日または遅くとも乗車の1時間前

使用車両:10人乗りバン1台、軽バン1台 ※バスの愛称は「さじ未来号」

ドライバー:地域雇用6名(他に控え3名) ※ドライバーは50代:1名、60代:5名



●運行管理体制

・ドライバー及び車両の運転前チェック及び運行計画など(運賃収入の経理などは、さじ未来事務局職員が担当)

地域交通の利用実績

●令和3年10月より開始したさじ未来号の運行実績

※10月の月間集計のみ記載

○定時運行

運行日…(月)(水)(金) ※全13日運行

運賃収入…17,550円

延べ利用者…125名

(中学生以上:81名、小学生・障がい者:21名、
定期利用者:23名)

○予約型運行

運行日…(火)(木) ※全8日運行

運賃収入…7,700円

延べ利用者…47名

(中学生以上:30名、小学生・障がい者:17名)

●考察

・定時運行では、「用瀬駅前」「用瀬」「中学校前」「保健センター前」で乗降される方が多かった事から、利用目的として鳥取市内への用事の乗り継ぎ、用瀬トスク周辺への用事、千代南中学校周辺への用事、佐治診療所への通院などで利用された方が多かったと思われる。

・予約型運行では、「用瀬トスク」の利用者が一番多く、ついで「用瀬林医院」「井上医院」「佐治診療所」など診察目的が多かった。その他、「尾際ダム」への社会科見学送迎として佐治小学校が利用されたので、こういったイベントでの利用も今後増えていくものと思われる。

地域交通に係る今後の取り組みと課題

●今後の取り組み

将来的には、例えば運送会社と提携した「貨客混載」などを行うことで、運賃収入や市補助金以外の収益を確保することで事業の継続性を高めていくことも検討する。



参考: 大山町の貨客混載事業

●課題

人口減少に伴い、近い将来日ノ丸バスの減便が予想されます。例えば、朝夕の小中学生等の登下校時は日ノ丸バスが運行し、昼間は地域で運行するなど、今後具体的に佐治町生活交通会議の中で検討していく必要があります。



NPO法人さじ未来が目指す地域の姿

現状

「自分には関係ない他人事だ・誰かがしてくれる」



住民一人一人の意識改革

考え方の変化

「自分にも何かできる事がないか」という、思いや意欲の醸成



地域助け合い事業等の各種事業に参加

目指すすがた

- ▶ 高齢者世代には、住み慣れた地域にこれからも住み続けていけることの**安心**を高め
- ▶ 現役世代には、地域と関わり感謝され頼りにされることで「生きがい」や「糧」(**希望**)につなげ
- ▶ 子供世代には、このような地域の仕組みや姿を通して佐治に未来(**夢**)を見いだし、佐治で暮らしていこうという思いを育む



ご清聴ありがとうございました。